

「季刊わたぼうし」 第29号

発行者:わたぼうし連絡会
発行日:1993年(平成5年)1月1日 '93 冬号

第29号のテーマ 「私の趣味&娯楽 1」

初春の海は
平らに凧ぎわたり
はるかに泡雪まとう
能登富士

作：山本 道男

この機関紙は障害のある人、ない人が自由にそれぞれの考えを出し合い、主義・主張を超えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

テーマ《私の趣味&娯楽1》

今回は皆さんが日頃楽しんでいる「趣味と娯楽」について、寄せていただきました。

私の趣味と娯楽

地域住民・肢体障害

私の趣味は多種多様で、その中から三つばかり紹介いたします。

まず一つめの趣味は模型作りです。幼い頃から模型(プラモデル)が好きで、よく父や母に模型を買ってもらいました。大人になっても模型好きで、お金に余裕ができたなら模型を買いに行きます。模型は細かい部品がたくさんあるので、手の訓練にもなりますので、とても楽しいですし、できあがった時の満足感がとても感動します。

二つめの趣味はAVです。AVといっても、今話題のアダルトビデオ(時々見ますけど、こんなこと書いても良いのかな?)ではありません。AVとはオーディオ&ビジュアルのこと。AV機器を簡単にいえば、ステレオ・テレビ・ビデオ・ビデオカメラ等の機器のことを総合してAV機器といいます。

音楽を聴いたり、レンタルビデオ店で面白い映画のビデオテープを借りてきて見ています。近頃では、ただ映像を見るだけでなく、音までも楽しむ映画が出て来ました。専門的には(ドルビプロジックサラウンド)といますが、通称(ドルビステレオ)とっています。このドルビステレオは映像の画面に応じて、音が左から右、右から左へ、前から後、後から前へと音が動き回ります。まるで自分がその場にいるように感じられますので、とても楽しく映画が見られます。皆さん、ぜひとも、一回体験してみませんか?ヤミツキになりますよ。

三つ目の趣味は、最近、ビデオカメラを買いました。電動車いすにビデオカメラを取り付けて町へ出て行き、金沢市の道路の状況などを撮って、後でテレビを見ながら、ここは良い道路、あそこはガタガタな道路など、と自分なりに判断しています。また、さまざまな人々やいろいろな風景を撮って見たりしています。

そして、電動車いすでいろいろなお店に行きます。私は主に電化製品のお店やレコード(CD)のお店に行き、お店の人たちとさまざまな話をします。特に障害者は自分の家や施設に閉じこもりやすいので、なるべく多くの人々と接したいと毎日思っています。

趣味を持つと人との付き合いが広くなり、人々とも話が合うようになるのではないのでしょうか。そうすれば、趣味は障害を超えてしまうと自分自身思っています。楽しいことが数多くありますので、障害者諸君、趣味を持ちましょう。

卓球教室に参加して

地域住民・肢体障害

毎回は出席できませんが、できるだけ心がけて時間を作るようにしています。コクコクと時間ばかりが過ぎ去って後で考えてみるとなにをしていたか分からないことが多いからです。スポーツは好きで、一回一回が楽しくなっています。

また、教えて下さる方もいて、自分自身の悪い癖がよくわかり、勉強になります。自分

でいいと思ってやっても、アドバイスして下さる方がいなくては、人間は成長できないと思うので、そして、いろいろ言って下さる方がいて、とてもうれしいです。

そういった所では、すぐに直すことができないと思いますが、徐々にがんばって行きたいです。そして、卓球の台数より人数の多いときなどは、皆さんが快く交替していただき、いい人ばかりで喜んでいきます。私などは夢中になると代わらないで、長く使ってしまうことがあり、反省しています。これが試合のために、練習をしていることだったら、自分自身に余裕がなかったと思います。これからもこういう講習会があったら、どんどん参加していきたいです。

卓球することだけではなく、いろいろな人との話をするのも楽しいです。もっと、もっと、いろんな人の話を聞き、みんなとのコミュニケーションをどんどんしていきたいと思っています。私は卓球教室に行くときは、車の運転ができないため、行き帰りは乗せてもらいます。迎えに来て下さる人は当たり前のことですが、私の家を9時30分に出るとしたら、その前には出なくてはいけないということです。ということは私より早く起きなくてはならないということです。帰りはその反対に遅く家に着きます。

毎日、そういった方々への感謝の気持ちを忘れず、何事も悔いのないよう自分なりに頑張っていて行きたいと思っています。

私の趣味と娯楽

地域住民・肢体障害

「わたぼうし」の皆さん、コンニチハ。今回は「趣味と娯楽」についてということですが、私は一日25時間あったらいいと思っている位に時間に余裕がなく、あんなことをすればいい、こんなこともしたいと思ってもできないのが現状です。

と言っても、一日24時間中仕事とをしているわけではなく、睡眠もとるし。食事もする。入浴もするし。トイレも行く。こんな風を書いてしまえば、これで終わりですが、そうでもないのが人間たる所以で、私だってドライブや旅行に行くし、本も読む。テレビも見るし、ショッピングにも行く。パソコン通信もするし、ジグソーパズルも組み立てる。一定していないのが私の趣味(?)です。本当は時の過ごし方が下手なのだと思います。

「時は金なり」っていいですから、お金のたまらないのも、このせいかもしれません。また、昨今、休日は身障協会の役をしているので、その方のお手伝いをしたり、私たち親子三代別々の場所に住んでいる関係上、そちらに行ったりして、なかなか自分だけの時間がとれないんです。まあ最近は身体の動きが緩慢になり、自分じゃ自由奔放に一人で海や山に出かけて、のんびりと景色を眺めていたのですが、年に数回位しか行かれませんが、本当に仕事に行っている間は、仕方がないと諦めています。

私の趣味と娯楽

地域住民・肢体障害

私が障害者となる以前は、編み物や料理なんかがわりと好きで趣味としていましたが、障害者となった現在はリハビリと思ってやればできるのでしょうか、片手に麻痺があり、思うようにはいきません。

今はリハビリとして、病院のOT(作業療法)に通っていますが、そこで以前はできる範囲の手芸をしていました。しかし、今はどちらかというと、事務的な作業をしています。

私の場合とはどちらかというと、趣味とリハビリを区別したいので、現在の唯一の趣味といえば音楽鑑賞です。

よく障害者で趣味と言えば、寝ること、テレビを見ることを掲げる人がよくいますが、私の場合は日中はなるべく寝ないように心掛けています。なぜなら夜寝れなくなるからです。

寝れないと、いろいろなことを考えてしまいます。例えば、自分の将来のことなんかを考えて不安になり、暗い気持ちになります。そんなことを避けるためにも、夜はぐっすり寝れるように身体を動かすようにしています。とはいっても、できることの限りがあるので、晴れた日は外をなるべく散歩するようにしています。

他にも、週に何回かは一日単位で送迎付きの障害者施設のデイサービスに参加して、同じ障害者同志が集まって、能力の範囲内でゲームをしたりして、交流を深める集まりにも参加しています。

私もできれば健常者の集まりにも参加したいという気持ちもありますが、肉体的にも、精神的にも劣等感があって、娯楽とはなり得ないのです。

趣味と娯楽

ペンネーム・専ちゃん

人にはそれぞれ趣味があり、娯楽を持っていると思います。私は農家生まれでしたので、健常者だった時には生きものが好きで、いろいろな家畜を飼ったり、植木を育てて楽しんでいましたが、障害者となった今日では力仕事ができなくなり、仕事も趣味も娯楽も一変してしまいました。

今の仕事はラジオ放送を聞きながら、機能訓練を兼ねた竹細工で小物を作っております。趣味といえば新聞、雑誌から好きな記事を切り抜き、当たらないクイズ番組への応募、投稿をして楽しんでおりますが、妻には迷惑らしい。

新聞、雑誌は切り抜きで穴だらけになり、記事は小箱に分けて積み重ねてあるのが、目障りらしい。「一度。整理をしてよ」と小言を言う。「そのうちになんとかするよ」と言いつつ、いまだにできていないのです。

ハガキや手紙を出すのも努めに出る妻に頼むので、小言を聞くわけです。お金にならない仕事も、私には機能訓練に、ボケ防止に役立っているから今後も続けて行くよ。

「あなたの趣味は、私を困らせることでしょうか。」「言われてみれば、当たらずとも遠からず……そんな気もするね」と苦笑いをしている今日この頃です。

娯楽といえば、身障者団体の行事に参加して仲間とスポーツ大会、旅行、温泉療養、研修会、反省会などの親睦会でストレスを発散させて、生きる喜びを分かち合うことが一番になっております。

(川柳)・ペンネーム言いたいことを言う投書

- ・投書のペンが役所の腰を上げ
- ・男前あげて集いへ車いす

日常生活に役立つ障害者福祉制度

今回より、前号までの「福祉もの知り博士」の代わりとして、読者の皆様が日常生活の手助けとなる福祉制度を紹介していきます。

聴覚障害者用小包郵便物の制度の創設

聴覚障害者用のビデオテープを内容とし、かつ、3kgを超えない小包郵便物であって、聴覚障害のある者(以下「聴覚障害者」という。)の福祉を増進することを目的とする施設(郵政大臣の指定したものに限り。以下「聴覚障害者福祉施設」という。)と聴覚障害者との間に郵便によるビデオテープの貸し出し又は返却のために発受する小包郵便物は、料金の格安な聴覚障害者用小包郵便物として取り扱うこととされた。

1. 聴覚障害者福祉施設の指定手続き等

ア 聴覚障害者の福祉を増進する目的とする施設であって郵政大臣の指定を受けようとするものは、申請書を郵政大臣に提出しなければならないこととされた。

イ 前記アの申請書には、定款、寄付行為その他聴覚障害者の福祉を増進することを目的とする施設であることを証明できる書類を添付しなければならないとされた。

なお、定款、寄付行為その他聴覚障害者の福祉を増進することを目的とする施設であることを証明することができる書類とは、具体的には次ぎに掲げるものである。

- ・定款、寄付行為または金額。
- ・聴覚障害者の福祉の増進を目的として、聴覚障害者との間で、現に聴覚障害者用ビデオテープを完受していることを証明する文書。

2. 差し出し方法

聴覚障害者福祉施設から差し出す聴覚障害者小包郵便物は、当該施設の所在地の郵便配達を受け持つ郵便局または当該郵便局の郵便配達受け持ち区域内にある郵便局であって地方郵政局長の指定したものに差し出さなければならないこととされた。

3. 包装方法

聴覚障害者用小包郵便物は、その内容品の見本を提示して差し出す場合を除き、次のように包装し、その表面の見やすいところに聴覚障害者用小包の文字(聴覚障害者福祉施設

から差し出されるものにあつては、聴覚障害者用小包みの文字並びに当該施設の所在地)を記載して差し出さなければならないこととされた。

ア. 封筒または袋に納めるものにあつては、その納入口もしくはこれに相当する部分の一部を開き、又その内容品の大部分を透視することができるようにする。

なお、納入口を開閉が容易な道具を使用して覆ったものも、これに該当するものであるので、念のため。

イ. 前記アの包装以外の包装するものにあつては、包装の外部に無色透明の部分設ける。

4. 料金

聴覚障害者用小包郵便物の料金は、書籍小包郵便物の半額(身体障害者用書籍小包郵便物の料金と同額)とすることとされた。

各地の行事に参加して

ひまわり号に参加して

地域住民・肢体障害

今回初めてひまわり号に参加させていただきました。今年は、富山のエキスポ博でした。現地についてからは自由行動になり、友だちといろんなところを見てまわりました。

いろんなパピリオンがあるのですが、どこもたくさんの人で入ることができませんでした。それ以外で特に印象に残ったのは、噴水の中を歩いて渡ることができるコーナーがあり、人が近づくと水が止まるというものなのですが、何とも不思議な体験でした。

2階へ上がるのに、お年寄りや障害者のために家庭用エレベーターが用意されていたのですが、乗り心地はとても静かで見た目も落ち着いた感じで良いのですが、値段を聞いたところ、450万円位だそうで、とても個人では簡単に手が出るものではないとあらためて驚いてしまいました。

お昼には、会場内にあるインドカレーのお店で本場のカレーを食べたのですが、これがとても辛くてハーハー、ヒーヒー言いながら食べたのを覚えています。

会場が広くて、ちょっと疲れちゃったけど、お天気も良くて楽しい一日でした。

輝きのべにばな大会に参加して～第28回全国身体障害者スポーツ大会～

障害者支援施設・利用者 肢体障害

僕が国体への参加の知らせを聞いたのは、6月半ばを過ぎたころだった。更生の職員が「Mくん、山形の国体に出てみたい？」と僕に聞きにきた。はっきりと言って、自分でも信じられなかった。「どうして僕が？」と疑ってもみた。そして、あまり自身がなかったし多分、金はおろか銀も取れないことだろうと思っていた。

そんなこんなで僕は、国体に出ることにしてみた。心の中で僕は知らない土地に行くのも悪くないと思ったからである。それから、一ヶ月が過ぎた。結局、種目はこん棒投げと車いす30m走だった。

僕は朝早く起きて、練習を始めた。始めは軽く30mの往復の練習から始めた。この時は8月の真夏だったので暑かった。だから、仕事がすんでからするよりも朝の涼しいうちにしたらいいと考えた。

あまり、期待されない中で僕は練習を重ねた。時々、「かんばれや」と励ましてくれた人たちもいた。

そのうち、待ちに待った日がやってきた。さすがに他の人は顔付きが違う。僕は何だか、負けそうになっていた。

県庁からバスで10時間。山形に着いた頃はもう日が暮れていて、18時を過ぎていた。さすがにバスに長時間乗っていると、疲れてくるものであった。

ホテルに着いてからは、山形の案内人の人やコンパニオンに出迎えられた。さすが、北国の山形だけのこともあって寒く感じた。僕は早くホテルに入り、バスの疲れを癒したかったが、団体生活のためそうもいかないのが現実だった。

一日目は会場内の見学と練習だった。僕はこん棒投げを何回も練習した。が、距離は7mしか飛ばず、それ以上伸びなかった。この時、僕はいらだちを感じていた。きっと、自分自身に焦りが出たんだろう。

次の日の開会式は緊張の中で始まった。何万人の観客、そして選手とその関係者。この時、皇太子殿下も来ていた。選手はいろいろな人がいて、その土地の顔立ちをしていた。その他は外国の方からも参加していた。

この日の僕の種目はこん棒投げだった。僕は一生懸命に投げたけれど、予想通り2位で銀メダルをもらった。「当たり前だ、二人しかいなかったんだから」なんとなく、僕はしゃくにさわっていた。でも、今まで頑張ってきたんだから……と。そう考えたら腹も立たなかった。他の選手の人たちは頑張ったのか、良い成績を取っていた。また、この日はバレーボールの試合も行われていたらしく、僕はそれを見たかったけど、バレーボールの体育館と僕らの競技場とは離れていて、残念にも見られなかった。

次の日の種目は30m走。僕としては、はっきり言って走るのが苦手なことだった。だが、ここまで来て、そんなこと言っていられない。僕はまた銀メダルだと思い、(今度も二人しかいなかったから)自分の力一杯で頑張ってみた。すると運が良かったのか、今度は金メダルを取った。自分でも信じられないままテントに戻った。そしたら、聴覚障害の女子

バレーボールの選手の人らが「おめでとう」と言って、拍手をしてくれた。僕は何よりもうれしい気持ちを手話で「ありがとう」と返した。その人らはにこやかな笑顔で僕の返事に答えてくれた。この時、はじめて「ここに来てよかった」と思った。

そして、生憎の雨の中を僕を抱えて、山寺を見学させてくれた人たち、僕を可愛がってくれた同室の人たち、それに僕に手話を教えてくれた人。女子バレーボールの聴覚障害の人たちや他の選手で外人の人。優しくしてくれた山形県民の人たち。

僕は国体に参加して感じたことは、いろんな人たちに出会えたことかもしれない。金や銀よりも大切なのは、こうした出会いが大切だと僕は思っている。また、こんな機会があれば、今度は一人で参加してみたい。誰のためでもない、自分のために。

最後に、僕ははっきり言って、スポーツは苦手なんです。

「ほほえみの石川福祉・文化祭」に行って 地域住民・会社員

「国連・障害者の十年の最終年」を記念した『ほほえみの石川福祉・文化祭』が10月11日、金沢市の石川県西部緑地公園陸上競技場と松任市の松任総合運動公園で開催された。私は金沢会場に午後から行ってきました。

昨年为全国身体障害者スポーツ大会「ほほえみの石川大会」を思い出すような雰囲気の大会でした。金沢会場には約570人が参加。車いす100m競走や立ち幅跳び、障害競歩、ソフトボール投げなどの七つの競技が行われ、また、ステージでは、和太鼓や手話コーラス、ゲストの森川由香里さんを迎えたバンド演奏もありました。

そして、体験コーナーでは、盲導犬の使用、車いすの試乗、手話コーナー、点字コーナー、などがありました。さらに福祉機器や障害者の展示即売コーナーも設けられました。その即売コーナーでは、障害者が製作した陶器や手芸などが並べられ、私もそれらを手にとって見て歩きました。

昨年、「ほほえみの石川大会」で知り合った懐かしいメンバーの顔も見ることができましたし、私が入会している手話サークルの会員の人やろうあ協会の方々との手話での交流。ステージの上で始めてみる見る森川ゆかりさんのコンサートを見たりして短い時間でしたが、楽しい時間を過ごすことができ大変よかったです。

しかし、見知らぬ障害者との積極的な交流ができなかったのが、少し残念でした。大会に参加された皆さん、ご苦労様でした。

車いす市民交流集会から学んだこと 地域住民・肢体障害

10月3日～4日と岐阜県大垣市で東海北陸車いす市民交流集会があり、金沢からも私を含めて27人の障害者、介護者が参加しました。

この車いす市民交流集会は東海地方で10数年前から、地域や施設で生活する障害の重い人たちが主体的に参加して、障害を持つ多くの仲間との連帯や地域の人たちとの交流を

深めるのを目的に隔年に開催されており、90年には北陸で初の交流市民集会を金沢で開催しました。

今回の大垣大会では街づくり、生きる場づくり、公共交通、介護保障などの分科会があり、私が出席したのは公共交通の分科会でしたが、20数人の障害者、健全者が出席していて各地の実情や問題が報告されましたが、その内容は移動の確保ということだけに終始していたように思います。

公共交通の問題について考えるとき、私は単に移動の確保だけを論ずるのは本質的な解決につながらないと以前から考えていたので、次のような観点から意見を述べました。

障害の重い人が外出するとき、家族やボランティアの自家用車、タクシーを頼っているのが、今の実情ではないでしょうか。

たしかに、近年はリフトつきタクシーや身障者割引、自治体や民間のガイドヘルパーによる送迎が各地で行われ、一見、重い車いす生活者の外出も用意になったように思えますが、しかし、リフトタクシーや送迎がいかに拡充されても、それはハコの世界であり、点から点の移動ではないだろうか。

なぜなら、障害者と運転手、あるいはガイドヘルパーといった限られた人たちとの関係であり、クルマという密室による乗車地点から目的地への隔絶された移動にすぎないからです。

いままで多くの重い車いす生活者は路線バスや電車、地下鉄といった公共交通機関の利用はムリだと考え、利用する重度障害者は少なかったように思います。

しかし、神戸や大阪、京都、横浜、東京など都市の一部の路線バスではリフト付きの路線バスが運行され、重い車いす生活者も一般の乗客と同じように利用している。

また、国や地方自治体も来年度からバスの改善を補助することを検討しているという。このような先進的な各地の実情から、私は金沢の重い車いす生活者も勇気を持って、「路線バスに乗る意義と運動」に取り組むことが必要だと思います。

重度障害者が公共交通(路線バス)を利用することは、単に足の確保だけでなく、不特定多数の乗客と「ふれあい」地域住民として一般の人たちと隣りあった生活を送り、真に自立した暮らしを得るためにも大切なことだと私は考えます。

たしかに、車いす障害者が乗ることは、一朝一夕で解決するような簡単な問題ではなく、多くの市民の理解と協力がなければ、解決しないことはいまでもありませんし、また、その対応を誤れば、金沢のような保守的風土では20数年前のバス闘争のように、重い車いす生活者に再び差別と偏見を招く恐れもあります。

しかし、私はそんな危険があっても、金沢の街で車いす障害者がバスに乗車することは、今日の社会状況や各地の実例から考慮して決して不可能な実現できない問題ではないと思います。

神戸や京都のように、リフト付きの路線バスを金沢の地で運行できるか否かは、私たち重度障害者一人一人の問題意識とその運動に関わっています。

これからの障害者運動を考えると、公共交通と住宅のことが地域で生活を希望する重度障害者にとって、最も切実で重要な問題になるでしょう。

そしてこの問題が解決されたとき、はじめて国際障害者年のメインテーマである「完全参加と平等」が、私たち金沢に住む重度障害者にも実感できるのかもしれない。

とにかく、今回の大垣の東海北陸車いす障害者市民交流集会で学んだリフト付き路線バスの運行を含む様々な要求運動を金沢の地で実現できればと思う今日この頃です。

みんなのひろば

命の尊さ

地域住民・七尾の福祉を考える会

金沢サニーランドの動物たちが、経営不振のあおりを受けて、命の危機にさらされています。このニュースを聞いて、子供の頃に読んだ象の花子の物語(戦争の犠牲になって殺された象の話)を思い出し、胸が熱くなりました。県内でもあちこちで、この問題が波紋を呼んで動物たちを守る運動が起きています。私も動物たちが殺されてしまうという最悪の事態だけは避けてほしいと願っているものの一人です。どんな形であれ、県内唯一の動物園は存続してほしいと願っています。

絵本で親しんだ象やキリンが、こんなに大きな動物だと教えてくれるのは動物園です。動く姿を目の前で見られるのも動物園の素晴らしさです。これまでサニーランドの動物たちはどんなにか多くの子どもたちの夢をふくらませてきたことでしょう。確かにテレビやビデオ、そして大型レジャーランド等の普及で動物園の人気も下降気味かもしれません。だからといって、そこに存在する動物たちの命が人間の都合で、粗末にされることなんてあってはならないことです。動物たちには訴える言葉も、人間の思いに抵抗する力もあります。本当に弱い立場にあるこの動物たちの命を考えると、ふと私たちにも同じことが言えるのではないかと思いました。

社会はまだまだ健康な人に適したように作られています。「ノーマライゼーション」といわれても、障害を持つ人が生き生きと生活をしていくには多くの困難があります。障害を持っている皆さん～私たちには言葉があります。訴える力があります。自分たちが生活していくために必要なことをどんどん社会にアピールしていこうではありませんか。そして障害をもつ人ももたない人も、安心して暮らしていける社会に変えていこうではありませんか。人の命はみな同じ重さで尊ばれるべきと思います。

七尾養護学校のパソコンについて

地域住民・県立七尾養護教諭

七尾養護学校では、今年に入って4台のパソコンを購入し、パソコンは6台になりました。我が校でパソコンがどのように使われているかを紹介します。

漢字のシュミレーションを見ながら、漢字の筆順を覚えるもの。画面の絵を見ながら、数の合成、分解するもの。食べ物や日用品、動物などの絵や写真をマッチングするもの。カルタ、絵の色ぬり、絵を書いたり、字を書くもの、楽譜を並べて音楽を聞くもの。自分の家の電話番号を押すと、お母さんの絵がでてくるもの。

ゲームとして、アンパンマン・ルーレット、アンパンマン・スカットマシン、ちびまる子のジャンケンゲームなどがあります。ゲームは夏祭りや文化祭に使われました。以上の

パソコンソフトは先生が自作したものです。

また、子供がパソコンを操作するときは、キーボードを使わず、タッチセンサーを使って操作しやすくしています。

パソコンは、子供が興味を持って、集中して、学習できる便利なものです。また、パソコンで絵や字を書くときは、自分の手で書けなくとも、いくつものタッチセンサーを使えば自分の思っている絵や字を書くこともできます。以上のように、パソコンはうちの学校で活躍しています。

日本のちょっと気になる話?2

日本赤十字について

地域住民・七尾の福祉を考える会

現在では、ほとんどの国にある国際団体赤十字社(回教国では十字マークの使用を嫌い三日月を使うため一部赤新月社と言う)は149カ国にも達しています。その赤十字社(以後赤新月社を含む)の始まりと日本の関係、日本赤十字社の誕生をお話しします。

赤十字社の始まりは、130年前以上にスイスのジュネーブで誕生しました。これを最初に唱えた人は、スイスのアンリー・デュナンです。彼は実際に戦争の悲惨なありさまを目撃し、自ら負傷者を看護して国際的救護団体の創設が必要なることを痛感しました。「国際的救護団体があったら、もっと多くの負傷者を助けることができたであろう。さらに国際的に神聖な協約として、一つの原則を定めることは望めないだろうか」と二つの提案を全世界の人々に訴えました。

彼の思想は強く世界の人々の心をとらえ、多くの共感を得、デュナンが提唱した問題を研究するために選ばれた5人の委員が集まり、最初の委員会が開かれ、ここに赤十字国際委員会の前進である5人委員会が生まれ、この日(1863年2月17日)を誕生としました。

そもそも赤十字は、戦争の犠牲者を救うことが目的で創設されましたが、日本をはじめ5カ国が各国赤十字社の連合体として、単に戦時救護ばかりでなく、平時における健康の増進、病気の予防、苦痛の軽減に関する事業などに協力し、また、それらの連絡や調節、援助を行う機関として、赤十字社連盟が創設されました。

また、日本赤十字社の誕生は西南の役(明治10年)時に創設されました。これを主唱したのは佐野常民(政治家、佐賀藩出身、農商務相、枢密顧問官など歴任)で、西南の役の際「両軍の負傷者を敵、味方の区別なく助ける」という趣旨をもって日本赤十字社の前進である「博愛社」と名付け、ときの征討総督(せいとうそうかん)、有栖川宮熾人(あいすかわみやたるひと)親王に許可を願い出たのが1987年5月1日で、その日が日本赤十字社の誕生です。

本の紹介

素顔のまま 一痴呆老人の診療録より一

西谷 達也著 能登印刷出版部 定価 1,000円

「素顔のままで」には10編の短編漫画が収められており、著者の勤める老人性痴呆ほう症専門病院、片山津温泉の「丘の上病院」が開設されてから5年間にわふたるできごとを基に著者がフィクション化し、漫画を付けることで親しみやすいものになっている。

内容は患者、家族、医者、職員など、痴呆ほう症にかかわる人たちのそれぞれの立場からみた現状を紹介しており、とかく誤解や偏見を持たれがちな痴呆ほう症だけに、著者はできるだけ絵をリアルにし、患者自身やそれを取り巻く人々の苦悩や努力、喜びを描いている。問い合わせ先 加賀市片山津町 丘の上病院 507617-4-5575

年間協力会員募集中＝

この機関紙は障害のある人、ない人がそれぞれの考えを出し合う中から、互いに理解を深め、共に生きる豊かな社会づくりを目的として、有志により発行しています。

つきましては、主旨に賛同して協力会員になっていただく方々を募集しております。

この会費は、在宅障害者宅や福祉関係施設等に送付していますので、機関紙一部の料金ではなく、主旨に賛同していただいている方々の年間協力会費として扱っています。

送付：年4回(春、夏、秋、冬号) 会費:¥2,000円 振込先 郵便振替金沢 5-9791

編集後記

皇太子殿下の婚約、松井君の巨人への入団、貴花田関と宮沢りえさんの婚約発表後の騒動と、最近のニュースのおもしろいこと。しかし、世の中の動きの早さについて行けないのが現実です。

新年を迎え「季刊わたぼうし」も発刊9年目にて30号を迎えようとしています。この間にも施設入所者に措置費の一部負担の導入、基礎年金制度の導入などの動きがありました。

さて、現在、車いす、補装具などの申請、施設入所申請などの相談機関は、郡部の方は県福祉事務所ですが、今年の4月からは市町村役場に移転して福祉サービスが行われることとなります。

これによって、福祉機関が身近になり、便利なものになるのではないのでしょうか。

今回は編集の遅れにより、発送が遅れたことをお詫び申し上げます。(Z.O)

30号のテーマは趣味&娯楽Ⅱ